

平成26年度 成績概要書

課題コード（研究区分）： 4104-426500（道受託研究）

1. 研究課題名と成果の要点

- 1) 研究成果名：平成26年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫
- 2) キーワード：病害虫発生予察、注意すべき病害虫、新発生病害虫
- 3) 成果の要約：平成26年度に実施した病害虫発生予察調査から、多発傾向にあった病害虫として11病害虫を示す。また、平成27年度に特に注意すべき病害虫として3病害虫について防除指導上の注意を喚起する。さらに、平成26年度に新たに発生を認めた病害虫として21病害虫（病害13、虫害8）を示す。

2. 研究機関名

- 1) 担当機関・部・グループ・担当者名：中央農試・病虫部・予察診断G・岩崎暁生、中央農試・病虫部・クリーン病害虫G、上川農試・研究部・生産環境G、道南農試・研究部・生産環境G、十勝農試・研究部・生産環境G、北見農試・研究部・生産環境G、花・野菜技術センター・研究部・生産環境G
- 2) 共同研究機関（協力機関）：北海道農政部技術普及課、北海道農業研究センター、北海道病害虫防除所、（全道農業改良普及センター）

3. 研究期間：平成26年度（2014年度）

4. 研究概要

1) 研究の背景

病害虫の発生はその年の発生状況や気象経過のほかに、前年の発生状況の影響を受けるため、効率的な病害虫防除を実施するためにはそれら踏まえた全道的な情報が求められる。また、道内で未確認の病害虫が突発的に発生するため、迅速な対応が求められる。

2) 研究の目的

全道での病害虫発生状況を新発生病害虫も含めて記録し、これをもとに次年度に注意すべき病害虫を示して防除指導にあたっての注意を喚起する。

5. 研究内容

1) 農作物有害動植物の発生状況

- ・ねらい：農作物有害動植物の発生状況を記録する
- ・試験項目等：18作物・86病害虫の発生状況を調査

2) 突発および新発生病害虫の診断試験および調査

- ・ねらい：道内で新たに発生した病害虫を同定し記録する
- ・試験項目等：発生調査、再現試験、同定試験

6. 成果概要

1) 平成26年に多～やや多発した病害虫

- (1) 水稻：紋枯病、イネミギワバエ
 - (2) 大豆：マメシンクイガ、食葉性鱗翅目幼虫
 - (3) てんさい：ヨトウガ（第1回）、ヨトウガ（第2回）
 - (4) たまねぎ：ネギアザミウマ
 - (5) りんご：黒星病、斑点落葉病、ハマキムシ類、モモシンクイガ
- 注：下線は多発した病害虫

2) 平成27年度に特に注意を要する病害虫

- (1) 水稻の紋枯病および疑似紋枯病
- (2) 小麦のなまぐさ黒穂病
- (3) たまねぎのネギハモグリバエ

3) 新たに発生を認めた病害虫

平成 26 年度に、北海道内において以下の病害虫の発生が新たに確認された。

- (1) 秋まき小麦およびとうもろこしのヒメサビスジヨトウ (新寄主)
- (2) 大豆のアズキゾウムシ (新寄主)
- (3) 大豆のダイズサヤタマバエ (新発生)
- (4) ばれいしょのダイズウスイロアザミウマ (新寄主)
- (5) にんじんの黄化病 (新発生)
- (6) にんじんのガマノホタケ雪腐病 (新称・国内新発生)
- (7) レタスのうどんこ病 (新発生)
- (8) しゅんぎくの炭疽病 (新発生)
- (9) ほうれんそうの白斑病 (新発生・病原の追加)
- (10) ほうれんそうの株腐病 (病原の同定)
- (11) たまねぎの灰色腐敗病 (病原の追加)
- (12) たまねぎのホモノハダニ (新寄主)
- (13) リーキの白斑葉枯病 (新称・国内新発生)
- (14) すいかの炭疽病 (薬剤耐性菌の出現)
- (15) アスパラガスの疫病 (新発生)
- (16) 野菜類のネギアザミウマ (薬剤抵抗性個体群の出現)
- (17) スターチスのべと病 (新称・国内新発生)
- (18) ブルーベリーの炭疽病 (新発生・病原の追加)
- (19) ブルーベリーのチャノキイロアザミウマ (新寄主)
- (20) かのこそうの半身萎凋病 (新称・国内新発生)
- (21) かのこそうのキタネコブセンチュウ (新寄主)

注：病害虫名の後に記したかっこ内表記の凡例は以下のとおりである。

○新称・国内新発生：これまで国内で記録のなかった新たな病害虫であり名称も提案。

○新発生：道内での発生事例がなかった病害、道内に分布が確認されていなかった害虫。

○新寄主：道内に分布することが既知である害虫の、新たな作物への加害記録。

○新発生・病原の追加：道内での発生事例がなかった病害であり、既知病害と病徴の違いの無い新たな病原を追加する病害

○薬剤耐性菌の出現：道内での発生事例がなかった薬剤耐性病原菌の出現。

○薬剤抵抗性個体群の出現：道内での発生事例がなかった薬剤抵抗性個体群の出現。

○病原の追加：既知病害と病徴の違いの無い新たな病原の追加。

○病原の同定：未同定であった病原の種名の確定

7. 成果の活用策

1) 成果の活用面と留意点

ここに記載した病害虫について、特に今後の発生動向に注意する。

2) 残された問題とその対応

8. 研究成果の発表等